

教訓を次世代に

国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所と長野県飯田建設事務所、飯田市、高森町は5月29日、飯田文化会館で「天竜川災害伝承シンポジウム」を開いた。

シンポジウムは、天竜川流域を襲った甚大な土砂災害「未の満水」の発生から300年、遠江地震による被害に見舞われた「池口崩れ」から1300年の節目の年に、大規模災害の教訓を次世代に伝えることを目的に企画。約700人が参加し、基調講演やパネル



中部整備局ら 天竜川災害伝承シンポジウム

ディスプレイを通して、先人の知恵を学ぶとともに災害に備えた地域防災力の重要性などを共有した。

冒頭、あいさつに立った牧野光朗飯田市長は、「大災害の記憶を風化させることなく後世につなげ、安全・安心な地域づくり役に役立てるのがわれわれの使命だ。学べることをしっかり学び、実践していかなければならない」と述べた。

引き続き水間武樹飯田建設事務所長が「飯田地域は過去の災害の経験を生かしながら発展してきた。シンポジウムが地域の絆を強める契機になるよう祈念している」とあいさつした。また、中谷洋明天竜川上流河川事務所所長は、「インフラの維持管理はマラソンのようなもので、どんなにしんどくてもきちんと走り続けなければならない。緊急性が高い場合はサポートをかけることも必要になる。伝承とは忘れないことであり、忘れないためには正確に理解しなくてはいけない」と述べた。

伊那谷自然友の会の寺岡義治氏、元建設省河川局長で福島県広野町復興企画課企画振興係の尾田栄章氏の基調講演に続き、北澤秋司信州大名菅教授をコーディネーターに迎えたパネルディスカッションが行われた。写真。

